

マタイ 15:1-20 昔の人の言い伝え ¹ そのころ、ファリサイ派の人々と律法学者たちが、エルサレムからイエスのもとへ来て言った。² 「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人の言い伝えを破るのですか。彼らは食事の前に手を洗いません。」³ そこで、イエスはお答えになった。「なぜ、あなたたちも自分の言い伝えのために、神の掟を破っているのか。⁴ 神は、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っておられる。⁵ それなのに、あなたたちは言っている。『父または母に向かって、「あなたに差し上げるべきものは、神への供え物にする」と言う者は、⁶ 父を敬わなくてもよい』と。こうして、あなたたちは、自分の言い伝えのために神の言葉を無にしている。⁷ 偽善者たちよ、イザヤは、あなたたちのことを見事に預言したものだ。⁸ 『この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。／⁹ 人間の戒めを教えとして教え、／むなしくわたしをあがめている。』(七十人訳からの引用)／¹⁰ それから、イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。¹¹ 口に入るものは人を汚さず、口から出て来るものが人を汚すのである。」¹² そのとき、弟子たちが近寄って来て、「ファリサイ派の人々がお言葉を聞いて、つまずいたのをご存知ですか」と言った。¹³ イエスはお答えになった。「わたしの天の父がお植えにならなかった木は、すべて抜き取られてしまう。¹⁴ そのままにしておきなさい。彼らは盲人の道案内をする盲人だ。盲人が盲人の道案内をすれば、二人とも穴に落ちてしまう。」¹⁵ するとペトロが、「そのたとえを説明してください」と言った。¹⁶ イエスは言われた。「あなたがたも、まだ悟らないのか。¹⁷ すべて口に入るものは、腹を通して外に出されることが分からないのか。¹⁸ しかし、口から出て来るものは、心から出て来るので、これこそ人を汚す。¹⁹ 悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。²⁰ これが人を汚す。しかし、手を洗わずに食事をして、そのことは人を汚すものではない。」

マルコ 7:1-23 昔の人の言い伝え ¹ ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。² そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを見た。³ ——ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないと食事をせず、⁴ また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないと食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っていることがたくさんある。——⁵ そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」⁶ イエスは言われた。

「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。／『この民は口先ではわたしを敬うが、／その心はわたしから遠く離れている。／⁷ 人間の戒めを教えとしておしえ、／むなしくわたしをあがめている。』／⁸ あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」⁹ 更に、イエスは言われた。「あなたたちは自分の言い伝えを大事にして、よくも神の掟をないがしろにしたものである。¹⁰ モーセは、『父と母を敬え』と言い、『父または母をののしる者は死刑に処せられるべきである』とも言っている。¹¹ それなのに、あなたたちは言っている。『もし、だれかが父または母に対して、「あなたに差し上げるべきものは、何でもコルバン、つまり神への供え物です」と言えば、¹² その人はもはや父または母に対して何もしないで済むのだ』(神への誓願の優先。申命記 23:22-23、民数記 30:3)と。¹³ こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと同じようなことをたくさん行っている。」

¹⁴ それから、イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「皆、わたしの言うことを聞いて悟りなさい。¹⁵ 外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出てくるものが、人を汚すのである。」(¹⁶ 後代の異読：聞く耳のある者は聞きなさい。) ¹⁷ イエスが群衆と別れて家に入られると、弟子たちはこのたとえについて尋ねた。¹⁸ イエスは言われた。「あなたがたも、そんなに物分かりが悪いのか。すべて外から人の体に入るものは、人を汚すことができないことが分からないのか。¹⁹ それは人の心の中に入るのではなく、腹の中に入り、そして外[便所 ἀπεδρόνα]に出される。こうして、すべての食べ物清められる。[こうして、すべての食物を彼は清いものとした(岩波版)]」²⁰ 更に、次のように言われた。「人から出て来るものこそ、人を汚す。²¹ 中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。みだらな行い、盗み、殺意、²² 姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、²³ これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである。」

◎ユダヤ教の言い伝えと旧約聖書の食物規定に関する議論

◎食物規定の問題：

- ・前6世紀のバビロニア捕囚におけるアイデンティティー確保の問題。レビ記3、7、11章など。特に11章：浄不浄のタブー
- ・前2世紀のシリアによるギリシャ化との闘いの問題。
Iマカバイ記1:62；IIマカバイ記7:1
アンティオコスIVエピファネスによる食物規定違反の強要 → 殉教

- ・手を洗う：祭司のみに求められたものが、イエス時代には一般大衆にも拡大。手を洗う作法、使う水の量など細かく論じられ規定されていた。手は最も不浄とされやすく、感染しやすい。背後にあるのは、不浄は感染するというタブー：レビ記 15 章

◎成文律法（文書律法：トーラー）と口伝律法（ミシュナ）の関係の問題

・「昔の人の言い伝え」（口伝律法）

ファリサイ派が形成し保持し指定した口伝律法のこと。

ユダヤ教徒の信仰と生活は基本的には旧約聖書の教え（成文律法）に依拠し、それに合致すべきものであるが、その戒律そのものは常に明確であるとは限らない。また、律法を具体的な生活の場面場面に適用するにはそれぞれの場合に応じての細かな解釈が必要となっていた。

また、とりわけディアスポラ（離散のユダヤ教徒）にとっては、生活環境（異教徒との接触の問題など）や生活様式（異文化の浸透などによる）の変化に応じて、古い時代に文書の形で固定化した成文律法では直接適用できない事態も多々生じてきた。

しかし、彼らの生活は、神の言葉である聖書の定め常に何らかの形で適合していなければならない。そこでこのずれを埋め、律法を生活の隅々に至るまで実践するために、ファリサイ派や律法学者は真面目すぎるほどの努力を何世代にもわたって続けた。彼らは生活上の実践的な必要から、また熱心な聖書の釈義研究から、そして法的判例の積み重ねから、膨大な口伝律法を生み出した。それはすべて聖書の解釈であるが、聖書そのものを拡大したり改変したりすることはできないので、口伝律法を成文律法である聖書と並べて用いた。彼らは口伝律法は聖書に基づくものであるから、成文律法と同等の権威を持ち、モーセに与えられた神の啓示には成文律法のみでなく口伝律法も含まれていると考えた。

ファリサイ派は、こうした「昔の人の言い伝え」すなわち口伝律法を、神的権威を持つとするゆえに整理して削減することはできず、それは自ずと時代とともに増加する一方となるのであって、民衆の生活に対して細部にわたる絶大な力を及ぼすことになっていったのである。

・食事に關するシャンマイ派とヒレル派の論争

ヒレルとシャンマイは前一世紀末に活躍した著名な律法学者。シャンマイは生粋のパレスチナ・ユダヤ人であり、律法解釈については伝統主義的立場に立つ。これに対し、ヒレルはバビロニア生まれのユダヤ人であり、生地の学塾で律法を学び、長じてエルサレムに到り、代表的な律法学者シュマヤ、アヴタルヨンに学ぶ。異国のユダヤ人社会で律法を日常化していく困難な環境の中で成長したゆえであろうか、その律法に対する見解は極めて現実主義的である。両者の律法に対する見解の相違は、死後その弟子たちに継承され、シャンマイ派、ヒレル派となり、両者の間で個々の律法の解釈をめぐる議論されることが少なくなかった。（『ミシュナ I』ベラホート 8 の注 60 p.29 教文館 2003）

[一例：シャンマイ派は言う。手を洗い、その後でぶどう酒を杯に注ぐ。しかしヒレル派は言う。まず杯に注ぎ、その後で手を洗う、と。シャンマイ派は言う。彼の手を小布で拭き、それを食卓の上におく。ヒレル派は言う。椅子の上に。シャンマイ派は言う。食事のあと部屋を掃除し、その後で手を洗う。ヒレル派は言う。手を洗い、その後で部屋を掃除する。]

◎食物規定に対するイエスの革命的な態度

- ・イエスはすべての食物を清いと宣言した。
- ・口伝律法のみでなく、レビ記の食物規定（成文律法）を全面的に廃棄する。

●イエスの態度に関するマタイとマルコの相違

マタイ：言い伝え（口伝律法）を全面否定することはしない。

成文律法に抵触しない限りで、なおも尊重されるべきと考える。

（マタイ 23：2 以下参照、また 5：17～20 も参照）

マルコ：7：19b イエスはすべての食物は清いと宣言した。

「こうして、すべての食物を彼は清いものとした。」（岩波版）

「イエスはこのように、どんな食物でも清いものとされた。」（口語訳）

◎口伝律法のみでなくレビ記の食物規定（成文律法）自体を全面的に廃棄。

マタイはこの言葉を採用しない。

この点で、マタイのイエスはマルコのイエスから後退している。

悪徳表：マルコでは 13、マタイでは 7（十戒に合わせている）。

成文律法を遵守すべきものとするマタイの思想が表れている。